



月刊美術 2020年4月号にて
吉田正俊個展をご紹介します

時間を止める静謐の絵画

吉田正俊展

3月28日(土)～4月3日(金) 会期中無休

かわうそ画廊

東京都中央区新富1-8-11 東新ビル4F

☎03(3552)0550

12:30～19:00 / 最終日～16:00

<http://kawausogarou.com>

銀座

3月



よしだ・まさとし

1966年新潟県生まれ。92年新潟大学大学院修了。2005年～07年昭和会展招待出品。2012年第14回雪梁舎フィレンツェ賞展大賞を受賞し、雪梁舎財団の支援にてフィレンツェ市で研修。現在、新潟市在住。



《渇き》
65.2×22cm
油彩



《頬杖》 4F 油彩

新潟を拠点に、油彩画の研鑽を積んできた吉田正俊。真摯に絵に向かうなかで、女性をモチーフにした静謐な世界へと到達。その実力はフィレンツェ大賞受賞へと結実した。「時を止めるような静かな力、あるいは作品に流れるゆったりとした時間を画面から感じてほしい」(かわうそ画廊 二宮真理子)という通りの作品も息を飲むようなリアルな表現で、一瞬の美が閉じ込められている。

4号から15号までの女性像と、静物の小品を含む12点を展覧する。



月刊美術 2020年4月号にて
齊藤見佳展個展をご紹介いただきました

訪ね歩いた場所へと誘うモノトーン絵画

齊藤見佳展

5月15日(金)～5月18日(月) 会期中無休

かわうそ画廊

東京都中央区新富1-8-11 東新ビル4F

☎03(3552)0550

12:30～19:00 / 最終日～17:00

<http://kawausogarou.com>

新富町

5月

春展
NAVI



《戯れに》 16.3×32 cm ケント紙、インク

さいとう・みか

1987年東京生まれ。2010年女子美術大絵画学科卒業。在学時は銅版画を制作。現在は付けペンで制作。2013年の二人展より画家として活動。グループ展多数。2019年阪神百貨店「清祥の会」、「怪・怪・妖し展」出品。

自分の足で訪ね歩いた風景、自分の目で見た景色を繊細かつ緻密に描く。付けペンによるモノトーンの細密描写によって、見た人の心を「実際のその場所・瞬間」へ連れて行くことを目的としているという。モチーフとなるのは人の意思が入らぬ自然と人の作り出した建造物。相反する世界を描くことで、互いの魅力を深く感じることができる。取材地は東京を中心とした関東圏が多いが、今後は拡大していく予定。インチサイズから20号まで約20点を展観する。